

小児の呼吸と循環管理のトリセツ



監修 笠井 正志
著者 黒澤 寛史
B6 変判・224 頁
定価 4,400 円 (4,000 円 + 税)
発行日 2024 年 3 月 20 日
金原出版株式会社

同じ釜の飯を食える本

「同じ釜の飯を食う」とは「生活を共にした親しい仲間であることのたとえ（デジタル大辞林）」とある。COVID-19 の流行、医師の働き方改革を含めた時代の変化によって、同じ組織にいても仲間と一緒にいる時間は減ったのではないだろうか。私は懐古主義ではないが、何事も程度問題で、そんなちょっと前の時代がよかったと思う部分もある。仕事をしていない時間に、なんとなく一緒にいるときに、上司や同僚にとってはなにげなく発せられたが、自分にとっては心に残ることばを聞くことがあった。

私が小児救急のトレーニングを受けていた時に、いつ、誰から聞いたかも忘れてしまったが「意識障害だけで来る腸重積がある」と聞いたことがある。いわゆるクリニカルパールである。それを知ったうえで成書を読めば、たしかに腸重積の症状のひとつに意識障害と書いてある。しかし、おそらく本を読むだけではさっと読んで心には留めていなかっただろう。腸重積といえば、嘔吐、ソーセージ様腫瘍、血便、間欠的啼泣であって、意識障害だけの腸重積とかほんとにあるのか？ と思うだろう。そしてその後、たしかに、まれではない頻度で意識障害のみの腸重積に遭遇した。

このように、専門にどっぷりつかると時間は、意図しない会話に出てくるクリニカルパールを学んだり、その分野の思考の型を文字情報ではなくフワッと身に纏うように身につけたりする機会になる。では、専門にひたひたに浸かる時間が減ったり、そもそも専門家のなかで学ぶ機会がない場合、どうすればよいのだろうか。そう、小児の呼吸と循環の分野に関しては心配ない。まず本書を読むとよい。

呼吸、循環というと、難しい生理学、解剖学について難しく書いてある本はたくさんある。それはそれで学び深い。しかし、小児の呼吸と循環について、読者の立場を想像した著者が、難しいはずのことをやさしく語りかけてくれる本書のような本は他にはない。それはまるで、著者と同じフロアで働き、休憩時間にカンファレンス室でコーヒーを飲みながら話をしているうちに、ポッと著者から出てきたクリニカルパールを伝授してもらっているように感じる。参考文献はほぼない。エビデンスがないじゃないかと思うかもしれない。他の本には書いてないことももちろんある。しかし、そのことは本書の価値をまったく損なわない。それは著者のもとで学んだ多くの医師たちが証明してくれる。本書は、著者と、著者の同志と同じ釜の飯を食える本である。

というわけで、僕を弟子にしてください、黒澤先生！

鉄原健一（福岡市立こども病院 集中治療科 科長）